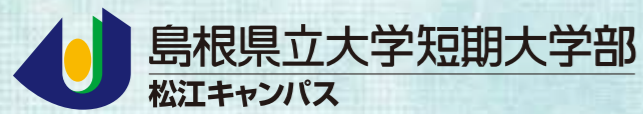


島根県立大学短期大学部 松江キャンパス発

# 地域研究と 教育

vol.  
4



島根県立大学短期大学部  
松江キャンパス

しまね地域共生センター  
Shimane Center for Enrichment through Community, The University of Shimane Junior College

〒690-0044

島根県松江市浜乃木7-24-2

TEL 0852-28-8322

FAX 0852-28-8366

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp>



# 「地域研究と教育 Vol.4」

## はじめに

島根県立大学松江キャンパスは、健康栄養学科・保育学科・総合文化学科の3つの学科から構成されており、教育研究にあたる教員34名と事務職員で組織されています。

各教員の研究は、それぞれの専門領域の学問的な課題探求によるものであり、松江キャンパス全体で人間諸科学の多彩な領域の研究がおこなわれています。

その中から、近年おこなわれた「地域」に特化した研究と、地域貢献を目指した教育活動を「地域研究と教育Vol.4」と題し、第3版までの内容を更に充実させて編集しました。地域の活性化を支える松江キャンパス教職員一同、さらに学生の活動意欲の高さを地域の皆様に知っていただきたいと思います。

「地域研究と教育」を創刊し、地域と結びついた教員の研究や、COC (Center of Community-地(知)の拠点)としての取り組み実績を発信してきましたが、松江キャンパスの活動についてどの程度ご存知でしたでしょうか。松江キャンパスには3学科が設置されています。それぞれ専門領域の強みを活かし、授業や公開講座の他にも、地域と関わるバラエティー豊かな内容の活動を繰り広げています。その拠点となるのが、学内に設置した「しまね地域共生センター(愛称:しまね縁ラボ)」です。大学と地域を結び、一体的な研究教育活動を推進するプラットフォームです。しまね縁ラボでは教育連携協議や研究連携協議がもたれ、大学・地域の双方から、この地域の課題解決に向けた取り組みをマッチングし、コーディネートすることも行われます。

地方の公立大学として、地域との連携を大切に、地域の文化資源の発見・探求・活用、地域の人材養成等の研究を進め、一層、地域に貢献していきたいと考えていますので、地域の皆様におかれましても、更なる参画、連携をいただきますようよろしくお願いいたします。

平成28年2月

松江キャンパス副学長 岸本 強

## Contents

### 健康栄養学科

- 西条柿熟柿ピューレを使ったキーマカレーの商品化「美肌の国 キーマカレー」 ..... 02
- しまね三味食品科学研究所(籠橋研究室) ..... 03
- 科学で証明する島根県産つや姫のおいしさ ..... 04
- 有機農業のための技術開発プロジェクト ..... 05
- 食育ボードゲームの開発 ..... 05
- 高齢者の生きがいづくりと定住促進を兼ねた米の食味テストと販路の検討 ..... 06
- 地域振興に活かす特許 ..... 06
- 小学校での食育授業 ..... 07
- 小児糖尿病大山サマーキャンプ ..... 07
- 炎症性腸疾患患者会食事学習会 ..... 07

### 保育学科

- 第42回はいくまつり ..... 08
- 松江市「子どもとメディア」対策協議会への協力 ..... 09
- 川本町におけるインクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト ..... 10
- 障害児発達支援における人的環境の課題 ..... 10
- 保幼小連携教育体制における多様性の研究 ..... 11
- 音への興味関心を育む研究「音のレストラン」の開催 ..... 11
- 島根県障がい者アート作品展 ..... 11
- 雲南市・幼児期運動指針実践調査研究委員会 ..... 12
- 島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会 ..... 12
- しまね県民福祉大会 ..... 12
- 松江市保育研究大会 ..... 13
- 松江市保育研究会造形展 ..... 13
- 障がい者虐待防止に関する検討会 ..... 13
- 民話蘇生研究 ..... 14

### 総合文化学科

- しまねの民話の保存 ..... 14
- 松江の文化資源を社会に活かす取り組み ..... 15
- 地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ ..... 16
- NPO松江ツーリズム研究会との連携  
松江カラコロ工房の利用状況調査  
松江城ボランティアガイド ..... 16
- 明治時代の文化財「興雲閣」 ..... 17
- 地域観光の国際化に貢献を ..... 17
- フィールドワークへのいざない ..... 18
- 異文化交流を通じて松江を知る ..... 18
- 異文化体験から学ぶ ..... 18
- 五感を使って歴史を学ぶ ..... 19
- 「出雲国風土記」を歩く ..... 19
- 地域の文化資源を見つめる ..... 19
- 絵本図書館おはなしレストラン  
ライブラリーの活動 ..... 20
- 絵本の読み聞かせ ..... 20
- 山陰の「小さな文化」を楽しむ のんびり雲 ..... 21

### 社会教育

- 「ふるさと教育」生涯モデル  
一島根県益田市モデル  
地域資源と協同的体験を保育教育課程に生かす ..... 22
- 保幼小連携によるWebシーズマップを活用した「ふるさと教育」の開発 ..... 22
- 研究者一覧 健康栄養学科 ..... 23
- 公開講座「椿の道アカデミー」 ..... 26
- 研究者一覧 保育学科・総合文化学科 ..... 24~25
- 履修証明プログラム ..... 27

## 西条柿熟柿ピューレを使ったキーマカレーの商品化 「美肌の国 キーマカレー」

健康栄養学科食品学研究室では、近年、島根県特産の西条柿を使った加工食品の開発に取り組んでいます。このたび、西条柿熟柿ピューレと松江市特産の秋鹿ゴボウを使ったキーマカレーを開発し、松江市農水商工連携事業の支援を受けて商品化されました。この開発は、履修科目「卒業研究」の課題の一つで、健康栄養学



科の3人の学生が中心となって行いました。完成したキーマカレーは、西条柿熟柿ピューレの自然な甘さと、ピューレの加熱によって生まれる弱いとろみ、これに秋鹿ゴボウのさわやかな香りと軟らかな食感が特徴の、ややスパイシーなカレーに仕上がっています。また、キーマカレーはひき肉のカレーなので、ゴボウはみじん切りです。西条柿熟柿ピューレを使ったカレーは、全国的に見て類がなく、この熟柿ピューレと松江でしか生産されない秋鹿ゴボウを組み合わせた「美肌の国 キーマカレー」は、まさに松江のご当地カレーと言えるでしょう。



## しまね三味食品科学研究所(籠橋研究室) ～「しまね県内農産物」で美味しく地域活性化～

北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究  
COCSしまね地域共育・共創研究助成金研究/島根県受託研究  
島根県農業協同組合石見銀山地区本部受託研究

### 1. 食味研究

～ 食肉(しまね和牛など)や島根米などを中心とした県内農畜産物の美味しさを科学的に検証 ～

### 2. 教育活動を通じて地域とつながる

～ 地域の食材の良さを知り、活かせる栄養士等の人材の育成 ～

#### 食味研究・教育活動 -卒業研究活動から調理加工品の考案へ-



### 3. 地域への発信

～地域の農畜産物の特性を生かした調理加工法の提供～  
第一弾!しまね三昧カレー  
第二弾!しまね三昧リエット(飯)

#### 学校外での試作・改良



#### 商品化へ向けての試作品完成



#### レストランでの試食会



## 科学で証明する島根県産つや姫のおいしさ



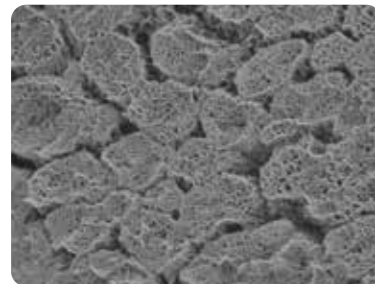
北東アジア地域学術交流研究助成金(共同プロジェクト)研究  
COCしまね地域共育・共創研究助成金研究  
島根県受託研究

島根県では平成24年から、品質が安定し、良食味米である「つや姫」の普及拡大を目的として、県産「つや姫」の食味等に関する商品特性を把握した上で、商品のPRや一層の食味向上に取り組んでいます。平成25年度から、健康栄養学科の教員及び学生が、島根県、島根県農業技術センターと共同し、県産「つや姫」の食味の「科学的評価」に取り組んでいます。平成26年度には、食味ランキング(日本穀物検定協会主催)出品材選定のための島根米食味向上コンテスト最終選抜審査に審査員として協力し、島根県産「つや姫」が一般財団法人日本穀物検定協会主催の平成26年産米の食味ランキングにおいて、初出品で最高ランクである「特A」を取得しました。

平成27年度産米についても引き続き食味官能検査による消費者の立場でのおいしさの評価、電子顕微鏡による炊飯米の骨格構造の検討、テンプレッサーによる炊飯米の粘りと硬さの評価を行い、また、島根米食味向上コンテスト最終選抜審査に審査員としても協力しました。

### 理化学分析

電子顕微鏡で炊飯米デンプン粒子の構造を観察(左)  
テンプレッサーで炊飯米の食感(粘りと硬さ)を機械的に測定しました(右)。



### 「特A」を取得したつや姫

一般財団法人日本穀物検定協会主催の平成26年産米の食味ランキングで最高ランクの「特A」を取得したつや姫。

### 官能試験

「コシヒカリ」「つや姫」「きぬむすめ」を実際に食べて評価し、粘り、香り、味などのおいしさを構成する要素を検討しました。



## 有機農業のための技術開発プロジェクト



COCしまね地域共育・共創研究助成金研究

島根県では、有機農業を県農業の柱の一つとして推進する取り組みが、平成24年度から本格的にスタートしています。有機農業の推進は、農業の自然循環機能の増進、環境負荷の低減、生物多様性の保全等、島根県にとって重要な課題ですが、有機農業に対する消費者の理解と関心は未だ低いのが現状です。今後さらに、有機農業の推進、オリジナル品種(品目)の開発を推進していくためには、消費者の理解と関心を高めていくことが重要となります。そこで、平成26年度から、島根県、島根県農業技術センターと共同し、有機農業産物、オリジナル品種(品目)の食味等に関する分析を行い、有機農業、商品のPR、食味向上に取り組むこととしました。平成26年度は、「トマト」及び「メロン」の官能評価、食味を表現する用語の整理に、学生と教員で取り組みました。平成27年度は、有機米の食味について理化学分析を行いました。



## 食育ボードゲームの開発



学術教育研究特別助成金研究

「畑のお肉は何？」  
食について家庭で話すきっかけにしてほしい、食と健康に興味・関心を持つ子が増えるように、などなど、学生が願いと学びを込めて、「食育ボードゲーム」(小学生対象)を制作しました。



栄養の背景にある様々な問題から、食に興味のない子どもが増えています。県の名産も盛り込んで、ゲームで楽しく知ることから興味・関心につなげます。  
子どもたちに実際に遊んでもらいながら改良を進め、将来的には、学校等での食育にも活用してもらえればと思っています。

## 高齢者の生きがいづくりと定住促進を兼ねた米の食味テストと販路の検討

COCSまね地域共育・共創研究助成金研究

松江キャンパス健康栄養学科の酒元は、花桃祭りでは有名な邑南町川角集落(平均年齢が80歳以上)における高齢者の生きがいづくりと定住促進策を兼ねて、川角集落の米と西の横綱と称される島根県のトップ・ブランド米である「仁多米」との比較研究を、浜田と松江キャンパスの大学祭に食味テストを行いました。結果は、同等という評価が下り、後は米の直販による安定的な現金収入が得られるような販売方法を浜田キャンパス総合政策学部の豊田先生が探ることになります。



## 地域振興に生かす特許

新産業創出研究会助成研究

### 糖尿病予防および治療への地域からのニーズ

島根県は全国的にも糖尿病有病率の高い県です。島根での糖尿病患者数の減少や医療費削減、健康寿命の延伸を目指して、糖尿病予防のための研究を行っています。研究成果をもとに、平成24年に2件の特許を取得しました。



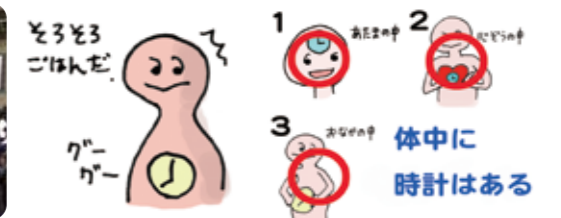
### 特許の活用について

現在は特許を活かして、産学官の連携による糖尿病予防のための栄養価計算ソフト、経管栄養剤の実用化を検討しています。平成25~26年度は基礎研究の強化および山陰発技術シーズ発表会 in とっとりへの参加を行い、企業とのマッチングを図りました。その成果により、平成27年度は、新産業創出研究会から研究助成金を獲得し、産学官連携による糖尿病予防および治療のための栄養価計算ソフトの試作に着手しました。



## 小学校での食育授業 乃木小学校と連携

乃木小学校での食育授業は、湖南中学校、乃木小学校との三者連携推進事業をきっかけに平成19年度から始まり、今年度で9年目を迎えます。これまでに「食事のあぶら」や「生物リズム」「朝食の大事さ」などのテーマで、5年生全員といっしょに楽しく勉強してきました。ユニークな質問がたくさん出てくる授業です。これまでに「体内時計の針は何でできているのか?」とか「和食と洋食のどっちが良いのか?」などの質問がありました。健康栄養学科の学生がいろいろ調べてお答えしています。



## 小児糖尿病大山サマーキャンプ

毎年夏休みに、1型糖尿病の子ども達が、学生ヘルパーや医療スタッフとともに集団生活を行う、大山サマーキャンプが開催されます。糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を身に着けることが目的です。ここに、教員と2年生が、食事係として毎年参加しています。食事は、子ども達にとって最大の楽しみで、また、病気の治療に欠かすことができない大切な物です!暑い厨房での作業は大変ですが、やりがいがあり、貴重な勉強の機会となっています。



## 炎症性腸疾患患者会食事学習会

炎症性腸疾患は原因不明の難病です。この病気にかかると、厳しい食事制限をずっと強いられることとなります。島根県には、松江、出雲、浜田、益田に炎症性腸疾患患者会があり、年1回程度、「上手においしく食べるための食事学習会」が開催されています。そこに、教員と学生が参加し、患者さんやスタッフと一緒に、作って、味わって、学んでいます。



## 第42回ほいくまつり

全人的保育者養成を目指して  
—ほいくまつりという総合表現活動の取り組み—



### 「ほいくまつり」とは

- 保育学科の教育理念を体現するシンボリック教育活動です。
- 島根県民会館で毎年6月に開催しており、大ホールは子どもたち・保護者・保育関係者の皆様に溢れます。
- 構成は、歌唱、影絵劇、劇、そして幕間を繋ぐ司会。
- 42年間、変わらない4本柱として受け継がれています。

本学が独自に置く専門科目「児童文化」の一環であり、保育学生全員が自治的・自主的に取り組み、全保育教員が専門的立場から指導・助言をする、総力をあげての活動です。



平成17年度 文部科学省GP(特色ある教育)採択

### 取り組みの特徴

- ◆ 毎年6月開催には大きな意味があります。この取り組みを通じて、1年生は入学間もない時期に「保育」の責任と難しさ、そして喜びと夢に衝撃的に出会います。2年生は本格的に保育に向かう意欲と意味と自信を獲得していきます。楽とは言えない準備期間を乗り越えて迎える公演では大きな感動を味わいますが、それはゴールではなく、深い保育の学びへの契機となり、始まりとなっています。
- ◆ 40年以上の歴史により、近年では幼少期に「ほいくまつり」を観た方が我が子連れて再び訪れるといったお話をよく耳にします。また、親子二代にわたって「ほいくまつり」に取組むといったことも出現しています。
- ◆ 保育を志す県内高校生の認知度は高く、中・高校生が保育者という将来の夢に出会う場となっており、この取り組みは乳幼児・保護者・保育関係者、そして保育者を夢見る若者に対して、限りない魅力を放っていると云えるでしょう。



### 松江市子どもとメディア推進協議会への協力



松江市では昨年度、「子どもとメディア」対策協議会を立ち上げ、電子メディアが子どもに及ぼす影響を踏まえて、正しい生活習慣の確立や、情報を正しく活用することのできる幼児、児童及び生徒の育成に社会全体で取り組むことを推進しています。そこで本年度は啓発ポスターを作成することとなり、本学科美術工芸研究室と連携し、所属学生が「子どもとメディア」につ

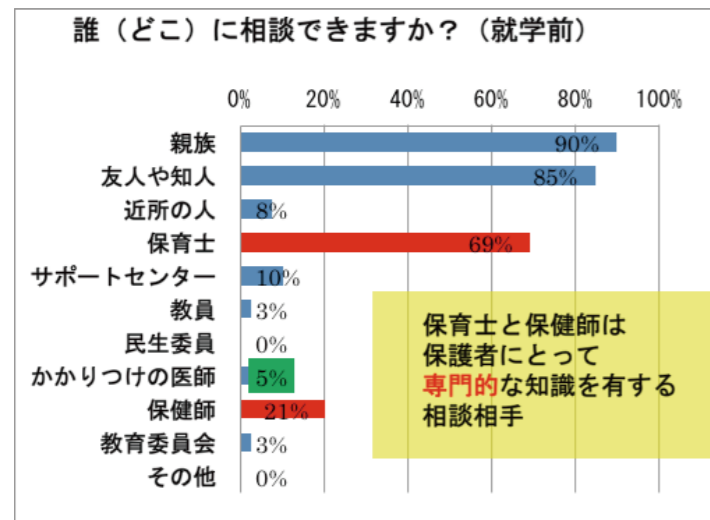
いての講習を受けたり、協議会と意見交換を重ねたりしたりしながらデザインを考え、学内での研究成果も生かして仕上げました。完成した7種類のデザイン案は協議会内コンペを経て、一枚のポスターが完成しました。このポスターは松江市内に広く細かく配布・掲示され、啓発に役立てられています。



## 川本町における インクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト

北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究

島根県川本町のような中山間地域の自治体での障害児保育・特別支援教育の課題について、平成25年度松江キャンパスCOC研究準備協議会(H26.3.7)で課題として取り上げて協議し、平成26年度から、川本町健康福祉課・教育委員会・川本小学校通級指導教室・川本町保育研究会と共同研究を開始しています。平成27年度中は、川本町全体の乳幼児期の発達分析を行い、課題解決のための相談支援ファイルとして『ゆうゆう手帳』を開発的に制作し、試行しながら完成版政策への研究を進めています。小児神経医療などの発達専門機関から遠い地域で、母子保健・保育所・小学校通級指導教室が手を携えて困難事例の保護者支援にあたるための、有効なツールとなりつつあります。



## 障害児発達支援における人的環境の課題

島根県の「障害児」保育・支援の専門職に焦点をあて、平成26年度に県内の市町村の健康福祉行政部局と教育委員会を対象に、0歳から就学前までの健診体制と発達相談・教育相談体制に関する質問紙調査を実施しました。島根県のこの領域での人的環境の課題を分析するとともに、しまね地域共生センターの研修プログラム開発に活かしています。

### 【調査協力16市町】

海士町、西ノ島町、安来市、松江市、出雲市・雲南町、奥出雲町、飯南町、大田市、江津市、川本町、邑南町、浜田市、益田市、津和野町、吉賀町

## 保幼小連携教育体制における多様性の研究

学術教育研究特別助成金研究

平成25年度学術教育研究特別助成金共同研究として、国の「子ども・子育て会議」会長である無藤隆客員教授から、平成27年度を目途に進められている国の保育制度改革を学び、合わせて松江市教育委員会と子育て課による「松江市接続期カリキュラム」研究発表を受けて、県内専門職とともに、新たな自治体規模で行われる保幼小連携教育の仕組みのあり方について協議しました。さらに、保幼小連携の流れから外れやすい認可外の小規模保育事業を視察研究し、島根県内における保育の実態の多様性を探求しています。



## 音への興味関心を育む研究 「音のレストラン」の開催

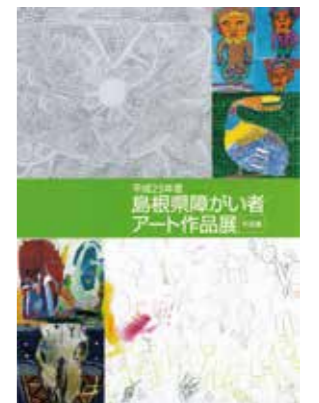
学術教育研究特別助成金研究

子どもの音への興味関心を育む研究の一貫として、親子で音楽体験を共有でき、しっかりと音を身体で体感することができるような演奏会「音のレストラン」を開催しました。大きなホールを会場とするのではなく、地域の子育て支援の場として利用されている施設を利用して、プロの演奏家による質の高い音楽と絵本を組み合わせた独自のプログラムで音楽を通じた親子のコミュニケーションを育む場を探究しています。



## 島根県障がい者アート作品展

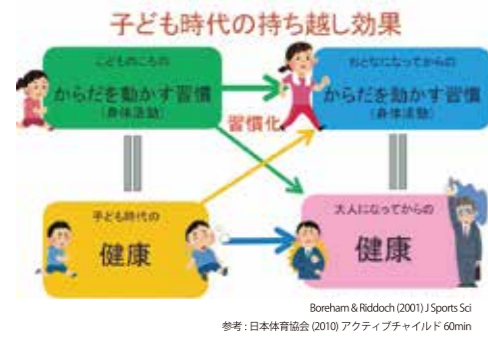
県内全域から作品が寄せられる「島根県障がい者アート作品展」(主催: 島根県社会福祉協議会)の公開審査において、保育学科美術担当教員が審査委員長として協力しています。本審査会は関係施設職員の研修の場としても位置づけられており、多くの参加者との意見交換を交えながら進められます。作品は島根県立美術館にて公開され、毎年多くの来場者に楽しんでもらっています。また、毎年作品集を発刊し、アールブリュット(生の芸術)の魅力と可能性を広く紹介しています。



## 雲南市・幼児期運動指針実践調査研究委員会

雲南市

文部科学省委託事業「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」



雲南市における文部科学省委託事業・幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業の幼児期運動指針実践調査研究委員会委員として岸本教授が参画しています。平成26年度までに「理論編」が作成され、平成27年度からは「実践編」の策定が行われています。

平成27年度から「子ども政策局」が新たに設置された雲南市では、地域の自然や人材を活用した子どもの育成、関わる人の支援まで幅広い視野をもった取り組みが進められています。

## 島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会

島根県

毎年11月下旬に本学アリーナに島根県内全域の保育所(園)、幼稚園から乳幼児の描画作品約3,000点を集めて、作品審査会を行っています。保育学科美術担当教員も審査員として加わるこの公開審査会は保育者の造形指導研修の側面も持たせているため、県内各地域から多くの現職保育者が参加しています。

選ばれた特選作品144点は、島根県立美術館にて展示し一般に公開します。また展示対象となった作品を掲載した画集を毎年刊行し、県内の保育・教育現場において造形指導の参考資料として活用してもらっています。



## しまね県民福祉大会

島根県



「平成25年度しまね県民福祉大会」において「障がい者アートの魅力と可能性～あいサポートで共生の島根(まち)づくり～」と題したシンポジウムが島根県民会館にて開催され、保育学科美術担当教員が進行とパネリストを務めました。世界的なアーティストや、日本を代表する障がい者アート施設代表、また企業として障がい者アートを活用・サポートしている方々と、島根県における本分野のあり方について討論を行いました。会場には県民の皆様をはじめ、700名の福祉関係者、行政職員、学生の皆さんが集まり、意見の交換が行われました。

## 松江市保育研究大会

松江市

平成26年11月の第8回松江市保育研究大会において、保育学科の岸本強教授は野波保育所で、小山優子准教授は育英保育園で研究大会の指導助言者を務め、分科会の進行と講評を行いました。平成27年11月の第9回同大会では、矢島毅昌講師が袖師保育所で指導助言者を務めました。分科会では、担当園(所)の研究発表後にグループ討議と全体会があり、活発な討議が行われました。また、三人の教員は研究大会までに各園(所)内研究会の講師も担当し、指導助言を行いました。



## 松江市保育研究会造形展

松江市



毎年1月に島根県立美術館にて、本研究会に加盟する全保育園(所)の園児の造形表現を展示する作品展が開催されています。この作品展では、園児の描画作品はもちろん、立体作品や、園の枠組みを超えて作り上げる巨大な壁面装飾作品を展示公開しており、大変多くの来場者に親しまれています。その作品展開催に向けて、50園以上の加盟園職員を対象として、子どもへの造形指導のための講義や解説、また展示、飾り付けの方法についての指導を保育学科美術担当教員が行っています。



## 障がい者虐待防止に関する検討会

松江市



平成24年の障害者虐待防止法の施行に伴い、松江市は「松江市障がい者虐待防止センター」を設置しました。センターでは、障がい者虐待防止に関する検討委員会を立ち上げ、障がい者自身、養護者、福祉従事者を対象に障がい者虐待に関するアンケート調査を行い、その結果を「松江市障がい者虐待防止シンポジウム(平成26年11月22日)」にて報告しました。今後は、その結果が虐待防止マニュアル等に反映されることが期待されます。この取り組みに保育学科福祉担当教員が関わっています。



## 民話蘇生研究

－匹見町道川地区と邑智郡大和村の民話の復刻と再生－



COCLしまね地域共育・共創研究助成金研究

学術教育研究特別助成金研究

昭和50年代に民話の書き起こし研究を残した本学卒業生の協力を得て、かつての手書き記録集「島根県美濃郡匹見町昔話集稿：道川地区」「島根県邑智郡大和村昔話集稿－第1巻：比敷・宮内・村之郷地区」をワープロソフトにより、デジタルデータ化し、かつての方言資料を現在の子どもたちに伝承文化として残し、民話を生活体験の中に蘇生させるための検討を行っています。

平成27年度は、「島根県美濃郡匹見町昔話集稿：道川地区」をすべてWordファイルにしたCD再録番組子と音源CDを完成させ、益田市立匹見中学校生徒と道川

小学校生徒の皆さん、教員と公民館の皆さんに届ける

事業を実施しました。今後のふるさと教

育の中で民話が伝承文化として息

を吹き返すよう、地域とともに共同

研究を継続しています。



## しまねの民話の保存

－民話音源のデジタル化－



学術教育研究特別助成金研究

松江キャンパスには、島根の古老たちが語った民話を録音したカセットテープが数多くあります。島根大学名誉教授で、今から40年ほど前に島根の民話採集を行った田中瑩一先生からお借りしたものです。隠岐・出雲・石見と島根県内を隈なく歩いて集めた民話の数はおよそ6000話、テープは400本を超えます。テープは劣化が進み、このままでは収められた話の再生も難しくなるため田中先生と協力しながらテープのデジタル化に着手したところ。すでに石見部のテープのデジタル化を終え、その一部をCDにして、上記記事のとおり、地元の子供たちに聞いてもらいました。なかには曾祖父の声がCDに収められていた子供もいて、民話音源が見ついた縁となりました。



## 松江の文化資源を社会に活かす取り組み

－ハーン研究と地域貢献－



学術教育研究特別助成金研究



ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)を島根の人的資源として観光文化の振興や文化の創造に活かす実践研究に取り組んでいます。

NPO法人松江ツーリズム研究会と連携した「松江ゴーストツアー」は、ハーンが再話した怪談ゆかりの地を語り部の話を聞きながら歩く夜のツアーで、



7年間で266回実施し、4379名が参加する(2015年11月末)人気の着地型観光プランとして定着しています。

また、2015年6月には、アイルランド南部ウォーターフォード県のトラモアにハーンの人生を9つの庭で表現した「小泉八雲庭園」がオープン。同年10月には松江市から贈られたレリーフの寄贈式が行われました。また、首都のダブリンでは、松江市の協力による”The Open Mind of Patrick Lafcadio Hearn-Coming Home-”をテーマとする特別展とシンポジウム、小泉八雲朗読ライブを開催し、ハーン・島根・日本の魅力を紹介しています。

## 地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ —へるん探求—



山陰地方にゆかりの深い作家へるん(小泉八雲)の足跡地の探訪を通し、ゆかりの地における小泉八雲の文化資源的活用について、体験的に学ぶことを目的としています。

具体的には、島根県の出雲大社・日御碕神社・一畑薬師、鳥取県日野町の幽霊滝、琴浦町の八橋海岸、大山町の妙元寺などのゆかりの地を前期・後期各1回ずつ訪問し、現地専門家のレクチャーや地域の関係者との交流を通して、地域文化の継承・発信、八雲の資源的活用の意味を探求します。



## NPO松江ツーリズム研究会との連携



COCSまね地域共育・共創研究助成金研究

### 松江カラコロ工房の利用状況調査 —観光まちづくり学—



同研究会の依頼を受け、松江カラコロ工房訪問者の実態を把握するために、10月の週末を利用してアンケート調査を行いました。その後、学生たちはグループに分かれて、利用者の出発地(松江市、県内、県外、海外)別の特徴を分析し、成果報告会で発表し、報告書にまとめました。

### 松江城ボランティアガイド —卒業プロジェクト(観光文化ゼミ)—

同研究会理事長(山本素久氏)のご指導を受け、国宝化に伴い注目の集まる松江城で、ボランティアガイドを行いました。案内したお客様からは、「よく勉強している」「丁寧でわかりやすかった」など、喜んでいただきました。



## 明治時代の文化財「興雲閣」 —歴史的建造物の検証—



文化的な価値のある建造物の構造や材料等の特徴について学ぶ科目です。平成26年度は史跡松江城内に立地する島根県指定有形文化財である明治時代の木造建築「興雲閣」の保存修理工事現場を、松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課のご厚意により見学しました。普段はみられない床板や壁紙をはずした様子や、天井裏の小屋組を間近で知る貴重な体験となりました。



平成27年秋に修復工事が竣工し、白聖から当初の淡い綺麗な緑色に復元されました。松江市の歴史的風致形成建造物に指定されており、景観形成上重要な役割を果たします。今後の授業見学では、耐震補強のための鉄骨柱への工夫や、エレベーターを設置しつつも文化財との距離感を大事にしている点等が見所になります。



## 地域観光の国際化に貢献を —観光フィールド・トリッパー—



島根県内の観光地を、地元ならではの情報も加えて、外国人観光客を英語で案内します。学生たち自身が地元の良さを再発見したり、また、県外出身の場合は島根の良さを発見したりします。平成27年度は、英語文化系1年生が外国人ゲスト達と出雲市の平田を訪れました。宍道湖と中海の独特な環境と生物を伝える「ゴビウス」、目のお薬師さまとして親しまれ、座禅体験もできる「一畑寺」、独特の酒造りの祭りがある「佐香神社」、武蔵坊弁慶のゆかりの地である「鱈淵寺」、古い街並みと様々な伝統を体験できる「木綿街道」などを巡る1泊2日の旅行でした。事前研修で案内の練習、旅行中は英語でガイドの実践をして、旅行後は英語で報告書作成をするというプログラムです。地域観光の国際化に貢献していきます。



## フィールドワークへのいざない

### —地域探検学—



奥出雲町でのフィールドワークを、夏季休暇中に2泊3日で行います。グループに分かれて、農家を訪問して聞き取りを行ったり、担当地区を五感を使って調査したりしながら、奥出雲について学んでいきます。調査結果は、地域の方々をお招きした成果発表会で報告します。奥出雲では、このほかにも、農作業体験、そば打ち体験、たたらと刀剣館での学習なども行います。学生はフィールドワークの楽しさと難しさ、地域の文化と地域が抱える問題について考える重要性を学びます。

## 異文化交流を通じて松江を知る

### —アジア文化交流—



中国・台湾・韓国・ロシア・アメリカからの研修学生と短期大学の学生が、交流しながら学びます。研修学生は、県立大学浜田キャンパスの「短期日本語・日本研修プログラム」で来日します。1泊2日の合宿での文化紹介、松江市内ツアー、成果発表を通じて交流を深め、互いの国の文化理解へとつなげていきます。市内ツアーは、短大生がテーマに基づいてプランを立て、松江を紹介することを通じて、自らの文化と地域を再発見しています。



## 異文化体験から学ぶ

### —アジア文化演習—



夏季休暇中に1週間、日本に近くて縁の深い中国(北京)と韓国(ソウル・仁川)を訪問します。北京では、世界遺産(故宮博物院、万里の長城)の見学、京劇や雑技などの民族文化の鑑賞を行うことで、伝統文化への理解を深めます。さらにそこに住む人々の暮らしを理解するために、地下鉄や路線バスを使って下町や市場などにも足を伸ばし、人々と交流しながら日常生活について観察・記録をします。異文化体験をすることで他者理解を深め、口頭発表やレポートを通じて自己表現をする力も同時に磨いていきます。



## 五感を使って歴史を学ぶ

### —松江の文化と歴史・しまね歴史探訪—



総合文化学科1年生を対象とする科目「松江の文化と歴史」、2年生を対象とする科目「しまね歴史探訪」とも、フィールドワークと学生によるプレゼンテーションを実施しています。その目的は、五感を通じた地域の歴史の体得と、地域の歴史を発信する実践力の育成にあります。学生は松江(松江の文化と歴史)／石見銀山・津和野(しまね歴史探訪)のフィールドワークに参加し、自分たちの視点でそれぞれの地域を紹介します。

## 「出雲国風土記」を歩く

### —日本古典文学—



なじみある島根の地名の歴史や由来を理解するために、『出雲国風土記』は最適なテキストです。この授業では、出雲大社に遡る由来をもつ熊野大社を中心に、神魂神社、発見までに様々な説があった国庁跡や山代二子塚古墳、古代王陵の丘などを、また出雲のスサノオ神を考えるため須佐神社や松本一号墳、クシナダヒメの鎮座地、「八雲立つ…」の須我神社などをめぐってその地勢や規模を確かめ、複雑な古代出雲の形成過程を歩いて辿ります。学生はレポートと出雲古代マップ、写真や絵図をまとめたフィールドノートを作成し、島根の古代史、神話伝承を体感していきます。



## 地域の文化資源を見つめる

### —日本文化演習—



平成26年度は、芸術文化の理解を目的として、島根県立美術館の見学を実施しました。美術における女性の表現や、郷土の画家の作品、また水を画題とする絵画等を鑑賞しました。また、宍道湖畔の景観と調和した美術館の建築を通して、「水と調和する美術館」という島根県立美術館の基本的な性格の一つに、触れることができました。

## 絵本図書館おはなしレストラン ライブラリーの活動

### 松江キャンパス読み聞かせ10周年

松江キャンパスで絵本の読み聞かせを授業に取り入れて、平成27年度で10周年を迎えました。読み聞かせの授業を始めたきっかけは、松江市立病院に入院している子どもたちへの読み聞かせボランティアでした。絵本を1冊また1冊と少しずつ蓄えて活動を続け、今では年間に約100名の学生が合わせて1000冊の絵本を子どもたちの前で読むほどになりました。平成21年には児童図書専門の図書館「おはなしレストランライブラリー」をキャンパス内に開設することができ、読み聞かせの授業の拠点として活用しています。地域のみなさんにも開放し、利用者も年々増え、「おはレス」の名で親しまれています。その取組が認められ、平成26年には小規模ながらも本の貸し出しを通じて地域貢献している図書館に贈られるマイクロ・ライブラリーアワードの表彰を受けました。



### 児童文学作家あまきみこさんをお迎えして

平成27年10月31日(土)、11月1日(日)の2日間、「ちいちゃんのかげおくり」「おにたのぼうし」「白いぼうし」など小学校の国語教科書でもよく知られている児童文学作家のあまきみこさんを松江キャンパスにお招きし、心温まる時間を過ごしました。あまさんは84歳になられますが、とてもお若くてチャーミングな方でした。ご自身の戦争体験などを踏まえて作品の誕生秘話を数々おはなしいただきました。そしてなによりも、あまさんのやさしさに聴衆全員がすっぽりと包まれ、忘れられないひとときとなりました。



## 絵本の読み聞かせ —忌部小学校を訪問—

毎週金曜日の朝、総合文化学科の卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生たちは、松江市立忌部小学校で読み聞かせの活動をしています。1学年20名程度のクラスで、全学年で絵本を開いて子どもたちと向き合います。平成21年度から継続しており、学生の乗ったおはなしレストラン号に子どもたちは手をふってくれます。待機場所の図書室から眺める四季折々の山の風景も心をやさしくしてくれます。



## 山陰の「小さな文化」を楽しむ のんびり雲 —文化情報誌制作II—



総合文化学科では、学科発足前年の2006年から、教育活動のひとつの柱として文化情報誌『のんびり雲』の制作に取り組んでいます。昨年(2015年)の秋には第9号を発行しました。

本誌は学生と教員が共同で制作にあたりますが、企画、取材から原稿執筆、誌面制作に至るまで、印刷・製本以外のすべての作業を自力でこなしているのが特徴です。誌面のレイアウト・デザインもパソコンを使って自分たちで行います。

毎年20人前後の学生が制作に参加します。総合文化学科のカリキュラムには「文化情報誌制作II」という科目があり、その授業内容は「『のんびり雲』の制作」。2年生向けの配当科目で、この科目を取って記事を書く単位がもらえます。1年生は授業としてではなく、サークル活動のような形で『のんびり雲』の制作に参加します。

本誌の合い言葉は「山陰の『小さな文化』を楽しむ」です。有名な文化財・文化遺産ではなく、地味で平凡な、身近にあってなかなか注目されることのない「小さな文化」を見つけて楽しもうというわけです。対象地域は山陰両県で、ほとんどの記事は学生たちが実際に現地に足を運んで(教員が同行します)、取材して書きます。これまでに訪れた取材先はおよそ170カ所です。

『のんびり雲』は年に1回、10月半ばに発行しています。頁数は90頁前後、全頁カラーで写真をふんだんに掲載しており、寝転がって読める楽しい雑誌です。発行部数は2100部、山陰両県の主要書店で販売も行っています(定価400円+税)。



## 「ふるさと教育」生涯モデル —島根県益田市モデル— 地域資源と協同的体験を保育教育課程に生かす

北東アジア地域学術交流研究助成金(共同プロジェクト)研究

本研究は、益田市保育研究会(ふるさと教育研究委員会)による「ふるさと教育の生涯モデル」を基盤としつつ、地域研究や保育研究に関わる研究者、地元専門職、そして社会教育に関わる地元団体が共同プロジェクトを組んで、「ふるさと教育」カリキュラムの支援システムの作成、保幼小発達段階におけるふるさと教育の協同的体験の発達の意義の検討を進めています。地域資源と保育教育現場での活動実態を研究協議し、益田市をモデルとしたふるさと教育の「Webシーズマップ」作成によって、カリキュラムの具体化を目指します。



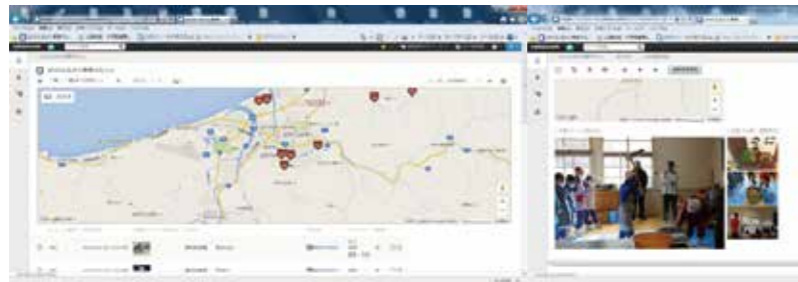
平成26年度益田市ふるさと教育Outcomeアート展



## 保小中連携によるWebシーズマップを活用した 「ふるさと教育」の開発

益田市・島根県立大学共同研究事業

本研究は、平成26年度までに行われた益田市保育研究会(ふるさと教育研究委員会)・益田市教育委員会との共同プロジェクト研究「Webシーズマップ」開発をもとに、さらに実践的に「Webシーズマップ」を活用し、地元の保育所・小学校・中学校で行われる、人生最初の15年間の「ふるさと基盤教育」を連携させることを目指しています。益田市をモデルとしつつ、地域研究や保育研究に関わる専門職、そして社会教育に関わる地元団体が共同プロジェクトを組んで、地域資源と協同的体験を保育教育課程に生かす「ふるさと基盤教育」のカリキュラムの開発へと研究をすすめています。



## 「地域研究と教育」学内研究者一覧 (平成27年度現在)

### 表の見方

学科名	ページ数	研究タイトル 研究助成等	学内研究者 連携研究者(機関・協力者)
健康栄養学科	2	西条柿熟柿ピューレを使ったキーマカレーの商品化「美肌の国キーマカレー」	赤浦和之教授 松江市、丸福農園
	3	しまね三味食品科学研究所(籠橋研究室) 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究 COCLまね地域共育・共創研究助成金研究、島根県受託研究 島根県農業協同組合石見銀山地区本部受託研究	籠橋有紀子准教授 島根県畜産技術センター 安部亜津子専門研究員 島根県畜産課、島根県農産園芸課、 島根県農業協同組合石見銀山地区本部
	4	科学で証明する島根県産つや姫のおいしさ 北東アジア地域学術交流研究助成金(共同プロジェクト)研究 COCLまね地域共育・共創研究助成金研究、島根県受託研究	名和田清子教授、直良博之教授、 籠橋有紀子准教授、石田千津恵助教、 川谷真由美助手 島根県農産園芸課、島根県農業技術センター
	5	有機農業のための技術開発プロジェクト COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	名和田清子教授、籠橋有紀子准教授 島根県農産園芸課、島根県農業技術センター
	5	食育ボードゲームの開発 学術教育研究特別助成金研究	名和田清子教授
	6	高齢者の生きがいづくりと定住促進を兼ねた米の食味テストと販路の検討 COCLまね地域共育・共創研究助成金研究	酒元誠治教授、 島根県立大学総合政策学部 豊田知世講師 邑南町定住促進課
	6	地域振興に活かす特許 新産業創出研究会助成研究	籠橋有紀子准教授 島根大学医学部 大谷浩教授
	7	小学校での食育授業	直良博之教授、川谷真由美助手、水珠子助教
	7	小児糖尿病大山サマーキャンプ	名和田清子教授
	7	炎症性腸疾患患者会食事学習会	名和田清子教授

保育学科	8	第42回ほいくまつり	保育学科
	9	松江市「子どもとメディア」対策協議会への協力	福井一尊准教授 松江市
	10	川本町におけるインクルーシブ相談支援ファイル開発プロジェクト 北東アジア地域学術交流研究助成金(地域貢献プロジェクト)研究	山下由紀恵教授 川本町教育委員会 (川本町立川本小学校・川本町特別支援連携協議会) 社会福祉法人川本福祉会 (川本保育所・因原保育所・川本北保育所)
	10	障害児発達支援における人的環境の課題	山下由紀恵教授、山尾淳子コーディネーター
	11	保幼小連携教育体制における多様性の研究 学術教育研究特別助成金研究	山下由紀恵教授、岸本強教授、 福井一尊准教授、藤原映久准教授、 矢島毅昌講師
	11	音への興味関心を育む研究「音のレストラン」の開催 学術教育研究特別助成金研究	梶間奈保講師
	11	島根県障がい者アート作品展	福井一尊准教授
	12	雲南市・幼児期運動指針実践調査研究委員会 文部科学省委託事業「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」	岸本強教授 雲南市
	12	島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会	福井一尊准教授 島根県
	12	しまね県民福祉大会	福井一尊准教授 島根県
	13	松江市保育研究大会	矢島毅昌講師 松江市
	13	松江市保育研究会造形展	福井一尊准教授 松江市
	13	障がい者虐待防止に関する検討会	藤原映久准教授 松江市
14	民話蘇生研究 COCしまね地域共育・共創研究助成金研究 学術教育研究特別助成金研究	山下由紀恵教授、岩田英作教授、高橋純教授 島根大学名誉教授 田中瑩一、 益田市教育委員会、益田市立匹見中学校、 益田市立道川小学校、道川公民館	
総合文化学科	14	しまねの民話の保存 学術教育研究特別助成金研究	岩田英作教授
	15	松江の文化資源を社会に活かす取り組み 学術教育研究特別助成金研究	小泉凡教授

総合文化学科	16	地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ	小泉凡教授、松浦雄二教授
	16	NPO松江ツーリズム研究会との連携・松江カラコロ工房の利用状況調査 COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 NPO松江ツーリズム研究会
	16	NPO松江ツーリズム研究会との連携・松江城ボランティアガイド COCしまね地域共育・共創研究助成金研究	工藤泰子准教授 NPO松江ツーリズム研究会
	17	明治時代の文化財「興雲閣」	藤居由香准教授
	17	地域観光の国際化に貢献を	小玉容子教授、松浦雄二教授、 マユアキ教授、クリス・ラング准教授 ダスティン・キッド講師
	18	フィールドワークへのいざない	鹿野一厚教授、小泉凡教授、 工藤泰子准教授、塩谷もも准教授
	18	異文化交流を通じて松江を知る	塩谷もも准教授
	18	異文化体験から学ぶ	鹿野一厚教授、塩谷もも准教授
	19	五感を使って歴史を学ぶ	杉岳志講師
	19	「出雲国風土記」を歩く	山村桃子講師
	19	地域の文化資源を見つめる	渡部周子講師
	20	絵本図書館おはなしレストランライブラリーの活動	岩田英作教授、マユアキ教授
	20	絵本の読み聞かせ	岩田英作教授、マユアキ教授
21	山陰の「小さな文化」を楽しむ のんびり雲	大塚茂教授、鹿野一厚教授	
社会教育	22	「ふるさと教育」生涯モデル 北東アジア地域学術交流研究助成金 (共同研究プロジェクト事業)	山下由紀恵教授、鹿野一厚教授、 矢島毅昌講師、福井一尊准教授 白梅学園大学大学院 無藤隆教授、 島根県中山間地域研究センター 藤山浩、 益田市保育研究会、益田市教育委員会、 益田市福祉環境部、島根県中山間地域研究センター、 (株)バイタルリード
	22	保小中連携によるwebシーズマップを活用した「ふるさと教育」の開発 益田市・島根県立大学の共同研究事業	山下由紀恵教授、鹿野一厚教授、 矢島毅昌講師、福井一尊准教授 益田市教育委員会・益田市保育研究会

## 公開講座「椿の道アカデミー」 —研究成果を生涯教育へ—



1992年に「短大火曜講座」としてスタートした松江キャンパス公開講座は、今年で23年目を迎えます。公開講座には毎年のべ2000人近い受講者が参加し、社会人の生涯教育の場として地域に定着しています。2015年度は14講座が開講され、内4講座は松江市民大学との連携講座、1講座は山陰民俗学会との連携講座となっています。

2015年度は、人気講座「源氏物語を読む」のほか、「子どもがいる家庭のための英語教育実践講座」「子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座」「案外知っているようで知らない『人』の話」、文化資源探求講座の「松江ゴーストツアー」など多様な構成となっています。今後も公開講座の開催を通して、会員および広く地域の皆様に学び楽しむ場を提供していきます。



### 風土記の語る神話 —出雲国風土記を中心に—



島根県「古事記1300年」事業に合わせ、藤岡大拙氏と松江キャンパス教員のコラボによる研究プロジェクト「出雲神話翻訳研究会」を、椿の道アカデミーの講座として、平成23年度に発足させ、ホームページも開設しました。時に面白おかしい、親しみ深い出雲弁を交え、その奥に深い学識と郷土への愛情を湛えた藤岡氏の語りは、4年間に亘り好評を博し、その続編として、26年度から始まったのが、「古事記」から「風土記」へと神話の舞台を移した、「風土記の語る神話」です。

### 栄養士のためのステップアップ講座 —卒業教育として—

この講座は、管理栄養士国家試験の合格を目指す栄養士の卒業教育として、島根県内の栄養士を対象として開催し、毎年約30名の方が参加しています。本学HPの在学生・卒業生総合支援web『Camellia (カメリア)』に質問掲示板を立ち上げ、日程が合わない、遠方で来れないという方でも、随時質問ができるよう対応しています。合格後も情報提供を希望する人が多く、卒業後や国家試験合格後も繋がりを絶やすことなく、地域に貢献できる講座を目指しています。

## 平成28年度開講 社会人のための「履修証明プログラム」8つのコース

平成25年に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」において、島根県立短期大学部松江キャンパスが新たに開設するのが「履修証明プログラム」です。



分野	コース名
健康	ライフステージを通じた食育
	地域特産品と食品開発
保育	障害児保育・相談支援体制
	地域子育て支援人材養成
文化	地域で支える生涯学習・教育基盤
	地域文化資源の掘り起し・評価・活用
	豊かな自然・歴史や文化を活用した観光
	地域情報の発信

「履修証明プログラム」は、平成28年度からの2ヵ年間で学ぶ、「健康栄養学科」「保育学科」「総合文化学科」にかかわる8つのコースで、「地域の専門職、専門的な学びに意欲のある社会人」の意欲に応えていきます。1コースは120時間以上の履修になりますが、コースを10数時間から30時間程度に分割した「単元」ごとに、無理なく2年間で学ぶことができるよう工夫されています。また、一部のコースは、ほとんどの講義をインターネットを使ったeラーニングで学び、10分から20分程度の受講の積み重ねで一単元が履修できるよう、忙しい社会人の生活に合わせたプログラムとなっています。各コースの履修について、詳しくは、島根県立短期大学部松江キャンパスのホームページをご覧ください。

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/>